

# 11月6日(月)～12月4日(月) 満月セレクト

— 今回のセレクトアーティストご紹介 —

Music Selector : 田村 直子



田村 直子

高校時代より、ジャズとそのルーツを遡って音楽を聴くようになり、世界各地の音楽に興味を持ち始める。大学では民族音楽学を専攻。大学卒業後は、音楽プロモーターとしての仕事に従事。現在は、ラジオ番組制作を中心に、音楽家の招聘、エージェンタ業務、イベントやコンサートのプロデュースを行う。

11月に入るといよいよ一年の終わりを意識し始めます。記憶を辿ると、たった一年というサイクルの中でさえ、刻まれた記憶と失われた記憶があることに気がつきます。それでは、時空を越えた記憶とは？今回は、『記憶』をテーマに選曲しました。

## 今回のセレクトCD

1.



**Jan Garbarek / The Hilliard Ensemble/Mnemosyne** (ECM / PCCC-1053/4)

ノルウェーのサクソフ奏者ヤン・ガルバレクが、イギリスの男声カルテット、ヒリアード・アンサンブルと共演した本作のタイトルは「ムネモシネ」。ムネモシネとは、ギリシャ神話に登場する「記憶の女神」。ばらばらになった古書や、数世紀の間砂漠の中に埋もれていた世界各地のさまざまな音楽の断片を集めて、5人の音楽家が即興的に紡いだ作品だ。タイトル通り、地域も時間も異なる記憶の断片に、新たな息吹を与え、音の光を放っている。

2.



**三宅純 / Lost Memory Theatre act-1** (P-Vine / PCD-26056)

「特定の場所と深く結びついている記憶がある。その特定の場所が、予告も無く姿を消してしまう事がある。リンクを断ち切られた僕らの記憶は、どこに迷い込んでしまうのだろう。世界各地で頻発する紛争や災害によって、人々の記憶が脅威にさらされている今、失われた記憶が流入する劇場が幻出して良いのではないか。」音楽家、三宅純の“Lost Memory Theatre”というプロジェクトは、3.11をきっかけに始まった。

3.



**Tigran Hamasyan / An Ancient Observer** (Nonesuch / WPCR17700)

アルメニア、エレバン出身のピアニスト、ティグラン・ハマシアンが今年発表した本作は、自宅のバルコニーから見えるアララト山を観察して作られた。アララト山は旧約聖書にも描かれており、ノアの箱船が流れ着いたとされる山である。太古の音、人々はこの山や自然を観察し土器に刻み込んだ。それと同じ風景を現在の自分も見ている。ティグラン・ハマシアンは、歴史の記憶から学び、今を音にする「太古の観察者」だ。

4.



**Toumani Diabate & Sidiki Diabate / 『Toumani & Sidiki』** (World Circuit / WCD-087)

西アフリカ、マリ共和国にはグリオと呼ばれる世襲制の芸能家系がある。昔から王族などの身分の高い人に仕え、国や王族の歴史を語り継ぎ、講える役割を担ってきた。現在でも、ジャバテという家系と聞けば、西アフリカのマリンケ族のグリオであるという事はすぐにわかる。トゥマニは、伝統を越えて、コラという西アフリカでグリオが昔から奏でてきた伝統的な弦楽器(ハーブ)の奏者として、世界の音楽界で第一線で活躍するグリオで、シディキはその息子だ。本作は、マリンケ族が受け継いできた歴史の記憶が現在でもフレッシュに継承されていることを語る。

5.



**Baden Powell / Lembranças** (Quattro Disc / LQ-003)

本作は、ブラジルを代表するギタリスト、コンポーザー、パーデーン・パウエル(バードン)の遺作。バードンは、2000年5月に本作を録音した数か月後、持病が悪化し世界した。本作のタイトルは「Lembranças(いくつもの記憶)」」。自作の2曲を除き、彼の生前や幼少期に生まれたブラジルの音楽の名曲が詰めこまれている。インスト作品でありながら、歌が聞こえてくる。「バードンは歌う、真ん丸な月の大きなこと!美しい愛の詩を歌いながら、街路をいく」バードンのギターの色に深く刻まれた歌の記憶は、永遠に色褪せることなく人々の心に生き続ける。